

## 1 麦生育状況

### 1) 生育調査結果 (調査日:平成30年12月17日,平成31年1月16日)

品種名	地区名	12月17日調査		1月16日調査	
		草丈 (cm)	莖数 (本/㎡)	草丈 (cm)	莖数 (本/㎡)
シュン ライ	名取市本郷	8.9	418	10.0	736
	名取市植松	10.0	562	11.9	920
	名取市下増田	10.6	222	11.1	434
	名取市愛島	15.3	334	14.0	654
	名取市高館	—	—	6.2	333

- ◆ 10月中に播種されたほ場では、年内目標生育量(400~500本/㎡)が確保されており、順調に生育が進んでいます。

## 2 今後の栽培管理

### 1) 排水対策

- ◆ 『明きよと排水路との接続の確認』を行いましょう！

- \* 融雪時や降雨による停滞水・土壌の過湿は、根ぐされ・根の伸長停止を招く恐れがあります。暗きよが閉じているほ場がないか、再点検しましょう。また、明きよの手直しを行いましょう。

### 2) 麦踏み(踏圧)

- ◆ ほ場が乾いているときに実施しましょう！

- \* 麦踏みは莖立ち前(主稈長2cm,幼穂長2mm)までに実施しましょう。
- \* ほ場が湿った状態で行うと、土が硬く締まり、根の伸長阻害や排水性の悪化の原因となります。作業はほ場が乾いた状態で行いましょう。
- \* 湿害による葉の黄化や生育量不足が著しい場合や、鳥害が見られる場合は、効果が十分に得られないので、麦踏みを行う必要はありません。

表1 踏圧の効果

麦踏圧	土壌鎮圧
<ul style="list-style-type: none"> <li>・耐寒性・耐旱性の強化</li> <li>・徒長・早立ちの防止</li> <li>・分げつの増加</li> <li>・分げつ相互の生育調整</li> <li>・穂揃いの均一化</li> <li>・深根化（→鳥害の軽減）</li> <li>・稈の強剛化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・霜柱による被害軽減</li> <li>・風による土壌移動の軽減・防止</li> <li>・早害による被害軽減</li> <li>・鳥害の軽減</li> </ul>

### 3) 追肥（株直し追肥：2月上～中旬頃）

#### ◆ 「葉色の回復，茎数の増加」には株直し追肥が有効です

- \* 生育量が小さい場合（㎡当たりの茎数が400本以下）や，葉の黄化が著しい場合などに，窒素成分で1～2kg/10a程度施用します。
- \* 茎数が多く，葉色の低下も見られないほ場では株直し追肥は不要です。

表2 大麦における追肥の施用時期と施用量の目安

追肥の種類 (生育ステージ)		株直し追肥 (2月上旬～中旬頃)	幼穂形成期 (幼穂長2～3mm)	減数分裂期 (幼穂長20～30mm)	穂揃期 (8～9割が出穂)
目的		茎数の増加 葉色の回復	有効茎歩合の増加 (穂数の確保)	一穂粒数の増加 登熟の向上	—
10月中旬に 播種した ほ場 (生育量が多い)	葉の黄化が 少ない場合	窒素成分 1kg/10a (硫安 5kg/10a)	窒素成分 2～2.5kg/10a (硫安 5～ 10kg/10a)	窒素成分 2～2.5kg/10a (硫安 5～ 10kg/10a)	硬質麦 防止のため 実施しない
	葉の黄化が 目立つ場合	窒素成分 2kg/10a (硫安 10kg/10a)			
11月以降に 播種したほ場 (生育量が少ない)		窒素成分 1kg/10a (硫安 5kg/10a)	窒素成分 1.5～2kg/10a (硫安 7.5～ 10kg/10a)	窒素成分 1.5～2kg/10a (硫安 7.5～ 10kg/10a)	

- \* 時期は平年の場合のおおよその目安であり，実際には現地ほ場の幼穂長を確認し，追肥時期を判断しましょう。